

全国を概観した地震動予測地図

National Seismic Hazard Maps for Japan (2007)

確率論的地震動予測地図 Probabilistic Seismic Hazard Map (基準日:2007年1月1日)

「全国を概観した地震動予測地図」とは、ハザードマップ（災害予測地図）の一種で、これまでの地震調査研究推進本部の成果を地図にまとめたものです。

この「確率論的地震動予測地図」は、日本全国を対象に「その場所が今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率」を色分けして示すとともに、地図上に主要断層帯（推進本部が選定した主な活断層）と海溝域のモデルを示し、その主なものについて「断層帯・海溝域ごとの地震発生の可能性（予想される地震の規模とそれが30年以内に起こる確率）」を示しています。

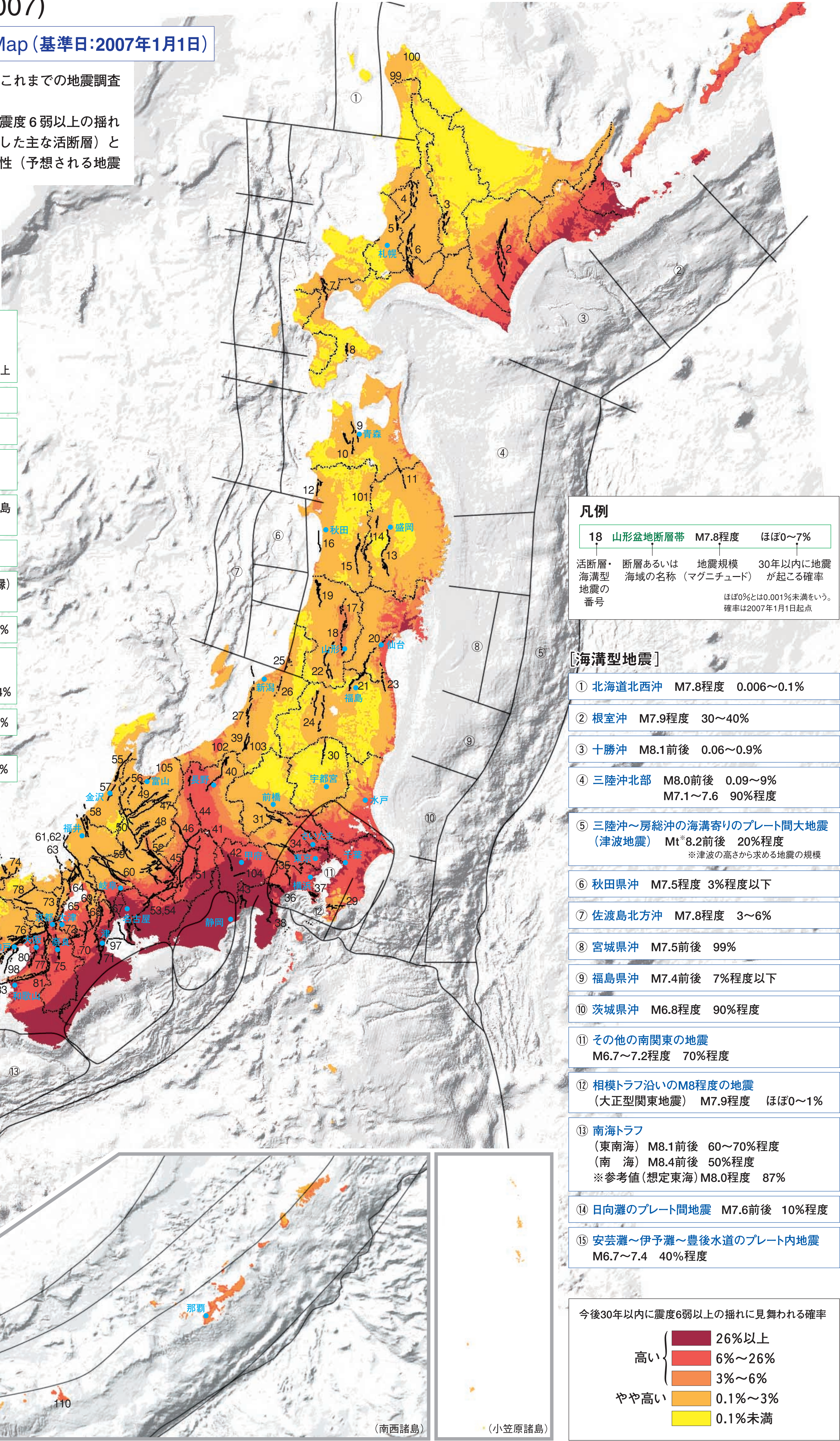
地震調査研究推進本部地震調査委員会

The Earthquake Research Committee, the Headquarters for Earthquake Research Promotion

検索ワード <http://www.jishin.go.jp/>

[活断層で発生する地震]

6 石狩低地東縁断層帯 (主部) M7.9程度 0.05～6%もしくはそれ以下	56 砺波平野断層帯・呉羽山断層帯 (砺波平野断層帯東部) M7.3程度 0.05～6% (砺波平野断層帯西部) M7.2程度 ほぼ0～3%もしくはそれ以上
7 黒松内低地断層帯 M7.3程度以上 2～5%以下	
18 山形盆地断層帯 M7.8程度 ほぼ0～7%	57 森本・富樫断層帯 M7.2程度 ほぼ0～5%
19 庄内平野東縁断層帯 M7.5程度 ほぼ0～6%	65 琵琶湖西岸断層帯 M7.8程度 0.09～9%
25 櫛形山脈断層帯 M6.8程度 0.3～5%	75 京都盆地－奈良盆地断層帯南部 M7.4程度 ほぼ0～5%
36 神縄・国府津－松田断層帯 M7.5程度 0.2～16%	79 六甲・淡路島断層帯 (主部六甲山地南縁－淡路島 東岸区間) M7.9程度 ほぼ0～0.9%
37 三浦半島断層群 (衣笠・北武断層帯) M6.7程度もしくはそれ以上 ほぼ0～3% (武山断層帯) M6.6程度もしくはそれ以上 6～11%	80 上町断層帯 M7.5程度 2～3%
41 糸糸川－静岡構造線断層帯 (牛伏寺断層を含む区間) M8程度 14%	81 中央構造線断層帯 (金剛山地東縁－和泉山脈南縁) M8.0程度 ほぼ0～5%
43 富士山河口断層帯 M8程度 0.2～11%	82 山崎断層帯 (主部南東部) M7.3程度 0.03～5%
45 木曾山脈西縁断層帯 (主部南部) M6.3程度 ほぼ0～4%	92 別府－万年山断層帯 (大分平野－由布院断層帯西部) M6.7程度 2～4% (大分平野－由布院断層帯東部) M7.2程度 0.03～4%
46 境峠・神谷断層帯 (主部) M7.6程度 0.02～13%	93 布田川・日奈久断層帯 (中部) M7.6程度 ほぼ0～6%
48 高山・大原断層帯 (国府断層帯) M7.2程度 ほぼ0～5%	95 雲仙断層群 (南西部北部) M7.3程度 ほぼ0～4%
51 伊那谷断層帯 (境界) M7.7程度 ほぼ0～7% (前縁) M7.8程度 ほぼ0～6%	
52 阿寺断層帯 (主部北部) M6.9程度 6～11%	



凡例

18 山形盆地断層帯

M7.8程度

ほぼ0～7%

活断層・断層あるいは海溝域の名称

地震規模 (マグニチュード)

30年以内に地震が起こる確率

地震の番号

ほぼ0%とは0.001%未満をいう。確率は2007年1月1日起点

- [海溝型地震]
- ① 北海道北西沖

M7.8程度

0.006～0.1%
- ② 根室沖

M7.9程度

30～40%
- ③ 十勝沖

M8.1前後

0.06～0.9%
- ④ 三陸沖北部

M8.0前後

0.09～9%

M7.1～7.6 90%程度
- ⑤ 三陸沖～房総沖の海溝寄りのプレート間大地震 (津波地震)

Mt*8.2前後

20%程度

※津波の高さから求める地震の規模
- ⑥ 秋田県沖

M7.5程度

3%程度以下
- ⑦ 佐渡島北方沖

M7.8程度

3～6%
- ⑧ 宮城県沖

M7.5前後

99%
- ⑨ 福島県沖

M7.4前後

7%程度以下
- ⑩ 茨城県沖

M6.8程度

90%程度
- ⑪ その他の南関東の地震

M6.7～7.2程度

70%程度
- ⑫ 相模トラフ沿いのM8程度の地震 (大正型関東地震)

M7.9程度

ほぼ0～1%
- ⑬ 南海トラフ (東南海) M8.1前後 60～70%程度

(南海) M8.4前後 50%程度

※参考値 (想定東海) M8.0程度 87%
- ⑭ 日向灘のプレート間地震

M7.6前後

10%程度
- ⑮ 安芸灘～伊予灘～豊後水道のプレート内地震

M6.7～7.4

40%程度

今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率

高い

26%以上

6%～26%

3%～6%

0.1%～3%

0.1%未満

やや高い

[主要断層帯] Major Fault Zones

1. 標津断層帯

2. 十勝平野断層帯

3. 富良野断層帯

4. 増毛山地東縁断層帯・沼田－砂川付近の断層帯

5. 当別断層帯

6. 石狩低地東縁断層帯

7. 黒松内低地断層帯

8. 面館平野西縁断層帯

9. 青森湾西岸断層帯

10. 津軽山地西縁断層帯

11. 折爪断層帯

12. 能代断層帯

13. 北上低地西縁断層帯

14. 磐石盆地西縁－真昼山地東縁断層帯

15. 横手盆地東縁断層帯

16. 北由利断層帯

17. 新庄盆地断層帯

18. 山形盆地断層帯

19. 庄内平野東縁断層帯

20. 長町－利府線断層帯

21. 福島盆地西縁断層帯

22. 長井盆地西縁断層帯

23. 双葉断層帯

24. 会津盆地西縁・東縁断層帯

25. 櫛形山脈断層帯

26. 月岡断層帯

27. 長岡平野西縁断層帯

28. 東京湾北縁断層帯^{※1}

29. 鴨川低地断層帯

30. 関谷断層帯

31. 関東平野北西縁断層帯

32. 元荒川断層帯^{※1}

33. 荒川断層帯^{※1}

34. 立川断層帯

35. 伊勢湾断層帯

36. 神縄・国府津－松田断層帯

37. 三浦半島断層群

38. 北伊豆断層帯

39. 十日町断層帯

40. 信濃川断層帯 (長野盆地西縁断層帯)

41. 糸糸川－静岡構造線断層帯 (中部)

42. 糸糸川－静岡構造線断層帯 (南部)

43. 富士山河口断層帯

44. 糸糸川－静岡構造線断層帯 (北部)

45. 木曾山脈西縁断層帯

46. 境峠・神谷断層帯

47. 鈴津川断層帯

48. 高山・大原断層帯

49. 牛首断層帯

50. 庄川断層帯

51. 伊那谷断層帯

52. 阿寺断層帯

53.54. 屏風山－恵那山－猿投山断層帯

55. 邑知淵断層帯

56. 砺波平野断層帯・呉羽山断層帯

57. 森本・富樫断層帯

58. 福井平野東縁断層帯

59. 長良川上流断層帯

60. 濃尾断層帯

61.62. 柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯

63. 野坂・集福寺断層帯

64. 湖北山地断層帯

65. 琵琶湖西岸断層帯

66. 岐阜－富田断層帯^{※1}

67. 美濃－桑名－四日市断層帯

68. 鈴鹿東縁断層帯

69. 鈴鹿西縁断層帯

70. 朝宮断層帯

71. 布引山地東縁断層帯

72. 木津川断層帯

73. 三方・花折断層帯

74. 山田断層帯

75. 京都盆地－奈良盆地断層帯南部 (奈良盆地東縁断層帯)

76. 有馬－高槻断層帯

77. 生駒断層帯

78. 三峠・京都西山断層帯

79. 六甲・淡路島断層帯

80. 上町断層帯

81. 中央構造線断層帯 (金剛山地東縁－和泉山脈南縁)

82. 山崎断層帯

83. 中央構造線断層帯 (紀淡海峡－鴨門海峡)

84. 長尾断層帯

85. 中央構造線断層帯 (御嶽山脈南縁－石鎚山脈北縁東部)

86. 中央構造線断層帯 (石鎚山脈北縁)

87. 五日市断層帯

88. 岩国断層帯

89. 中央構造線断層帯 (石鎚山脈北縁西部－伊予灘)

90. 菊川断層帯

91. 西山断層帯

92. 別府－万年山断層帯

93. 布田川・日奈久断層帯

94. 水鏡断層帯

95. 雲仙断層群

96. 出水断層帯

97. 伊勢湾断層帯

98. 大坂湾断層帯

99. サロベツ断層帯^{※2}

100. 幌延断層帯^{※2}

101. 花輪断層帯^{※2}

102. 高田平野断層帯^{※2}

103. 六日町断層帯^{※2}

104. 曾根丘陵断層帯^{※2}

105. 倉津断層帯^{※2}

106. 宇都宮断層帯^{※2}

107. 安芸断層群^{※2}

108. 磐国断層帯^{※2}

109. 人吉地南縁断層帯

110. 宮古島断層帯^{※2}

(※1は活断層でないとい評価された断層帯、※2は調査中の主要断層帯で、上記日本地図に断層線は未表示)

野島断層などを含む断層帯 (当時の地震発生確率0.02～8%) の中で、兵庫県南部地震 (阪神・淡路大震災) が発生

平成7年1月に発生した兵庫県南部地震により、淡路島にある野島断層帯で断層の南東側が最大1.4m隆起し、南西の方向へ最大2.1mずれました。
地震が発生する直前における六甲・淡路島断層帯主部の淡路島西岸区間 (野島断層を含む区間) での地震発生確率を後から計算したところ、30年以内に地震が発生する確率は0.02～8%であったことがわかりました。



交通事故で死亡、火災で死傷発生確率は ともに30年間で0.2%

事故や災害を例にとって30年間の発生確率を見ると、交通事故による死亡は約0.2%^{※1}、火災による死傷は約0.2%^{※2}という統計があります。地震の発生と同様、この数字は確率としては低いものですが、多くの人はその危険性を日頃から意識して気配りをしています。もちろん、地震は避けられない天災であり、交通事故や火災と単純に比較することはできませんが、たとえ確率が低くても地震も「身近な危険」としてとらえる姿勢が求められているのです。

※1、※2 平成16年警察白書・消防白書の統計に基づき、一定の仮定のもとに計算。

交通事故で死亡

30年間で約0.2%

火災で死傷

30年間で約0.2%

「全国を概観した地震動予測地図」 [http://www.jishin.go.jp/main/p_hyoka04.htm]
(独) 防災科学技術研究所 地震ハザードステーション J-SHIS [http://www.j-shis.bosai.go.jp/]

文部科学省 研究開発局 地震・防災研究課 (地震調査研究推進本部事務局)

〒100-8959 東京都千代田区丸の内2丁目5番1号 電話03-5253-4111 (代) E-mail:jishin@mext.go.jp
Earthquake and Disaster-Reduction Research Division , Research and Development Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
2-5-1 Marunouchi, Chiyoda-ku, Tokyo, 100-8959, JAPAN

この地図は、文部科学省の委託により、(財)地震予知総合研究振興会地震調査研究センターが作成した。

この地図の海岸線および県境は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000 (空間データ基盤) を複製したものである。(承認番号 平18総複、第1085号)
この地図の海底地形は、日本海洋データセンターの水深データを使用したものである。